

玉川上水の分水で、同上水が開通して間もない1655年に川越城主・松平伊豆守信綱が発案し安松金右衛門が開削した全長約25kmの水路である。発案者にちなみ伊豆殿堀の別名もある。約40日で完成したという。北東へ向かって流れており志木駅北側で新河岸川へ到達する。現在は下水処理水による清流が復活し、平林寺付近は格好のハイキングコース。

金鳳山平林寺という臨濟宗の寺院で、約43万平方メートルという広大な境内全域が県文化財及び県名勝に指定されている。もともとは室町時代永和元年(1375)に岩槻城主・太田道真(道灌の父)によって岩槻に開山されたが、天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原攻めに伴う岩槻城攻めで焼失(2年後に再建)。その後、江戸時代の寛文3年(1663)に川越藩主・松平輝綱が父・信綱の宿願を受けて、現在地に移転し、一族の菩提寺とした。

